



お茶の水女子大学
SHOKUIKUステーション
ニュースレター

平成21年度 第7号 (2月10日発行)
発行：お茶の水女子大学SHOKUIKUステーション
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
URL: <http://www.cf.ocha.ac.jp/shokuiku/>
E-mail: shokuiku@cc.ocha.ac.jp
代表：藤原葉子 (SHOKUIKUプロジェクトリーダー)

冬らしく、身が引き締まるような寒さが続いています。いかがお過ごしですか？
この時期、SHOKUIKUステーションの部屋からは、晴天の朝と夕方に富士山が見えます（一部ですが）。そんな冬ならではの楽しみを逃さず、そしてもちろん健康に、寒い季節を乗り切りたいですね。
今号は、年明け早々に開催しました「平成21年度食育シンポジウム」を特集します。



うがい、手洗い、
食事もしっかり！

「平成21年度食育シンポジウム」を開催しました！

今年度をもって終了するSHOKUIKUプロジェクトの集大成として1月9日（土）に開催した、3回目の食育シンポジウム。その位置づけにふさわしく、本プロジェクトの正式名称にも含まれる「子どもの発達・成長過程を見通した食育」をテーマに掲げ、講演と展示を行いました。この日は年明け早々の3連休の初日にもかかわらず、晴天にも恵まれ、全国から300人近くの方においでいただきました。
食や栄養へ高い関心を持つ方々とともに「食育」を考えた1日の様子をご紹介します。



展示

11時から展示がスタート。出展したのはSHOKUIKUプロジェクト、学生サークルOchas（オチャス）、エスピー食品(株)と(株)ベネッセコーポレーションです。
開始直後から、多くの方が共通講義棟1号館の展示会場においでくださいました。



SHOKUIKUプロジェクト
「子どもの発達・成長過程を見通した食育」
3年目の研究・活動の成果を、ポスターや映像によってご紹介しました。プロジェクト作成の教材類も併せて展示。



学生サークルOchas
「食と栄養に関する実践活動」
チームごとに多様な活動を展開するOchas。その内容やイベント参加報告などを、カラフルなプレゼンテーションにまとめました。



エスピー食品(株)
「マイ七味・マイカレー粉を作ろう」
日頃使っている調味料には、どんなスパイスが含まれているのでしょうか？詳しくて楽しい説明を聞きながら、世界にひとつだけの調味料が完成！



(株)ベネッセコーポレーション
「遊びを通して学ぶ 幼児期からの食育」
ごっこ遊びキットからデジタルコンテンツまで、未就学児向けの食育の最先端。子どもたちも、楽しみながら学べること請け合いですね。

で、裏では
講演の話を。



講演

13時から共通講義棟2号館・201室（大講義室）に300人近くの参加者を集め、本シンポジウムのメインプログラムともいえる基調講演、そしてSHOKUIKUプロジェクト活動報告を行いました。



基調講演

「食をめぐる子育て～子どもの食はなぜ危機なのか：共食の減少と”科学”の侵入～」

津田塾大学准教授・外山紀子先生 コメンテーター：本学教授・内田伸子先生

【講演概要】

日本人全体、そして子どもの食が問題を抱えていることが指摘される中、「共食」という視点から、食の持つ力を改めて考えたい。

「共食（きょうしょく：他者とともに食事をする）は、発達心理学における「三項関係」（自己・他者・モノ）の概念にみられるような、人間固有の「共食をする能力」によって可能になる。そしてこの「共食」が有する、コミュニケーションに関わる社会的な意味が、食物摂取量の増加や適切な食物選択といった生物学的な機能を高めることにつながる。

しかし、コンビニの増加等に象徴される社会環境の変化や家族の個人化・縮小傾向は、結果として「孤食」化を促している。また、食に関する知恵や技能の継承方法が変化し、人間・家族関係をベースにした知識よりも、科学や専門家による言説への依存度が高まる傾向がみられる。

食に関わる問題を考えるにあたっては、このような現状を把握し、人間ならではの食のあり方の根幹をなす「人とのつながりのなかで食べる」ということを、改めて見つめなおす必要があるのではないか。



…食育について考える中でも見落とされがちな「共食」という視点を、改めて提示して下さるお話でした。



目からうろこ！



【コメント・質疑応答】

共食の重要性について、本学教授・内田伸子先生が、社会環境の変化やご専門とする発達心理学の視点を交えながら、「共食⇔協食⇔享食」という独自の概念を提示。その後、内田先生の司会により、フロアとの質疑応答を行いました。

活動報告

「SHOKUIKUプロジェクト活動報告」

プロジェクトリーダー・本学准教授 藤原葉子先生
学内外での食育活動、栄養教諭教育、食育に関する研究推進、人材育成など、プロジェクトで3年間に実施した様々な成果を発表しました。



参加者の声（アンケート結果より）

「食育の普及・啓発はなかなか広がらないので、この様に大学で情報を発信することも大切だと思います。」
「2時間という時間の中でも、とても濃いお話を伺う事ができ、今後もっと調べてみたいと思う事や、自分が家庭を持った時に実践してみたいと思う事がたくさんありました。」
「人とのつながりの中で食べる共食の大切さを改めて実感しました。」
「食行動の本質を考える際、“共食”という切り口でみていくことは、今までのアプローチとは異なり非常に興味深かった。」

ご参加ありがとうございました！

ひとこと 北は青森、南は大阪・兵庫まで、全国から多くの方がお集まり下さいました。食育への関心の高さを改めて実感した1日でした。（栗本）

